

経験も成長も「遊び」の中に

よりみちステーション



取材協力

よりみちステーション
こばやし よしえ
代表 小林 由枝さん

子どもたちに自由に遊べる場を。そんな子ども居場所を武雄市内3カ所で運営されている「よりみちステーション」。地域の方の見守りの中で、子どもたちが安心してのびのびと過ごしています。

子どもの成長に欠かせない地域との関わり。2012年に武雄市で子どもの居場所づくりを始めた「よりみちステーション」は、団体からの助成金など自ら活動資金を調達しながら運営をしています。ここでの過ごし方は、すべて子どもの自主性におまかせ。みんなで一諸に遊んでもいいし、ひとりで本を読んでも、宿題をしても、ゴロゴロしていてもOK。大人からの「○○しなさい」という言葉は、一切ありません。

代表の小林さんにお話を伺いました。「今の子どもたちは放課後に遊ぶ時間が昔よりも減っていて、家でも学校でも塾でも時間に追われ、思った以上にストレスが溜まっている気がして。子どもらしく、のびのびと遊べる場を創ってあげたい。勉強する時間も、遊ぶ時間も自分で決めていい。

そんな場所をつくりたい」と、小学生を対象とした

「ぼちぼちや」をスタート。今では、中学生と乳幼児と地域の人のふれあいの場「てくてく」、いつまでもつながり続けるための常設の場「くむくむ」の3箇所に広がっています。小林さんたちスタッフの役割は、子どもたちの姿をただ見守ること。

「子どもたちはケンカをしても、その日のうちに仲直りしています。『ごめんね』ではなく、『また遊ぼうね』が仲直りの合図だったりする。大人が介入しなくても仲直りできるし、遊びの中の経験が心の成長には大切だと思えます」と小林さん。学校に行きづらかった子が「ぼちぼちや」が開かれる水曜日だけは渋ることなく学校に行き、午後から遊びにくる…ということも

あったのだそう。「もしかしたら、その子にとって『自由に遊べる時間』や、家族でも学校関係者でもない誰かに話を聞いてもらえることが、一日を頑張るエネルギーになっているのかもしれない。そんな時間を大事にしていきたい」と語ります。武雄中学校の会議室で開かれている「てくてく」では、乳幼児を育てているお母さんが訪れると、学生が赤ちゃんを抱っこしたり、お母さんの話を聞いたりして、子育ての素晴らしさや大変さを自然と学んでいます。触れあうことで自分の親への感謝が生まれたり、保育士になる夢を持った学生もいるのだそう。活動を始めた頃は「子どもを自由に遊ば

せる場」の価値を理解してくれる保護者ばかりではありませんでした。しかし活動を続けていく中で、少しずつ理解が進んできました。小林さんは「このような活動が佐賀県全体に広がればいいですね。子どもたちのありのままの姿を受け入れてくれる方が地域に一人でもいたら、そこは子どもたちにとって憩いの場になるはず。子どもらしい時間を過ごして大きく育ってほしい」と笑顔。子どもが「楽しくてたまらん！」と言ってくれるのがなよりの喜びと語る小林さん。寛容なまなざしで見守られながら、子どもたちが元気な声を響かせている、そんな素敵な「よりみち」が武雄に根つき始めています。



「てくてく」は、中学生が赤ちゃんを抱っこしたり絵本を読んであげたり、お母さんと赤ちゃんの結びつきを感じる場になっています



子どもの居場所について関心が高まり、講演会や事例発表、視察の機会が増えています

第1回佐賀さいごうCSO表彰式



武雄市の物産まつりでは子どもたち自ら「よりみちステーション」をPR!



おかえりー

よりみちステーションとは

地域のお節介おじちゃん・おばちゃんがたくさんの愛情を持って、誰もが気軽に集い、語らいのできる居場所づくりを行っている場所。ここでは子どもが主体的に過ごし、学び・育ち合います。

自治公民館での放課後の居場所

よりみちステーションぼちぼちや

活動日 毎週水曜日 放課後～18:00

場所 武雄市永島公民館

中学生と赤ちゃん地域の人とのふれあいの場

よりみちステーションてくてく

活動日 月2回木曜日 11:00～14:00

場所 武雄市立武雄中学校 会議室

子ども・若者を中心としたみんなの居場所

よりみちステーションくむくむ

活動日 月～金 11:00～18:00(水曜日を除く)

木曜日は20:00まで

場所 武雄市武雄町武雄5603-8(明光義塾向かい)

◎よりみちステーション 代表 小林
☎090(1346)2000

